

40年の あゆみ

一般社団法人
日本クレーン協会
東京支部

目次

ご挨拶「40周年を迎えて」	支部長	米村 幸雄 ……	1
「支部設立40周年に寄せて」	東京労働局長	増田 嗣郎 ……	2
40周年を迎えて	一般社団法人日本クレーン協会会長	森下 信 ……	3
支部設立40周年を迎えて	元支部長	佐藤 康博 ……	4
東京支部設立40周年おめでとうございます	元支部長	洗 光範 ……	5
40周年祝辞	元支部長	鈴木 博士 ……	6
40周年を迎えて	前事務局長	田中 和三 ……	7
支部設立40周年を祝して	運営企画委員長	松本 健太郎 ……	9
支部設立40周年に寄せて	広報委員長	羽鳥 哲夫 ……	10
一般社団法人日本クレーン協会会長表彰者名簿 ……			11
一般社団法人日本クレーン協会東京支部長表彰者名簿 ……			12
事業場見学会 ……			14
年度別教習実施状況 ……			20
一般社団法人日本クレーン協会東京支部歴代役員名簿 ……			21
運営企画委員名簿・広報委員名簿・支部講師名簿・職員名簿 ……			25
編集後記 ……			26

ご挨拶「40周年を迎えて」

支部長 米村 幸雄（大成建設株式会社）



一般社団法人日本クレーン協会東京支部は、本年、創立40周年という大きな節目を迎えました。これもひとえに、創立以来ご尽力いただいた諸先輩方のご努力、並びに会員の皆様、関係官庁・関係団体の皆様の長年にわたるご支援とご協力の賜物であり、心より深く敬意と感謝を申し上げます。

この10年を振り返りますと、社会は大きな転換期にありました。とりわけ新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちの生活様式や経済活動、働き方に大きな影響を及ぼしました。対面での活動が制限され、感染防止対策の徹底が必須となった中、テレワークやオンライン会議などの普及が一気に進み、時間や場所にとらわれない働き方が広く浸透する契機となりました。今後、デジタル技術の活用を中心に、あらゆる“モノ”のオンライン化および業務の効率化など新たな対応力が求められる時代になったといえます。

また、東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博の開催などの後押しもあり、首都圏をはじめ各地で再開発やインフラ整備が進められました。限られた工期の中で高品質かつ安全な施工を実現するため、クレーン等の果たした役割は極めて大きいものでした。大規模かつ複雑な工事現場などにおいて、事故を未然に防ぐため、また、工事の集中や人手不足への対応など、現場にはこれまで以上に高度な安全管理と効率的な作業体制が求められていることは言うまでもありません。クレーン等の安全運用は、こうした国家的事業を支える重要な基盤であり、その責任の重さを改めて実感した次第です。

さらに近年は、少子高齢化の進行に伴い、外国人労働者の皆様がさまざまな分野で重要な役割を担っています。多様な文化や言語を背景とする人材とともに働く現場では、これまで以上に分かりやすい安全教育や丁寧なコミュニケーションが不可欠です。玉掛け作業をはじめ、合図一つ、確認一つの徹底が重大災害の防止につながるという基本を、国籍を超えて共有する取り組みが求められています。多言語教材の整備や通訳スタッフの配置など、工夫を重ねながら教育事業を継続してこられたことは、協会の強い使命感の表れであったと感じており、今後も40年間で培ってきた経験と知見を礎に、さらなる安全教育の醸成と次世代人材の育成に取り組まれることを期待しております。

技術面では、ICTや各種センサーの活用、自動化・遠隔操作技術の進展など、クレーンを取り巻く環境は着実に進歩しています。しかしながら、どれほど技術が発展しても、安全の原点は「人」にあります。基本動作の徹底、確実な点検、相互確認の励行といった日々の積み重ねこそが、災害防止の礎であることに変わりはありません。

40周年は、これまでの歴史を振り返ると同時に、新たな未来への出発点でもあります。変化の激しい時代にあっても、「安全第一」の理念を揺るぎない柱として、安全水準の向上と技術の発展、そして会員相互の連携強化に取り組み、日本クレーン協会東京支部のさらなる発展に努力していきましょう。

結びに、厚生労働省をはじめ関係官庁の皆様、日本クレーン協会本部並びに支部会員の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。また、40年の歩みに感謝するとともに、新たな未来に向けて、より安全で安心な社会の実現に貢献していく決意をここに申し上げ、挨拶とさせていただきます。

「支部設立 40 周年に寄せて」

東京労働局長 増田 嗣郎



一般社団法人日本クレーン協会東京支部が創立 40 周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

貴支部におかれましては、昭和 61 年 5 月の設立以来、技能講習・実技教習等を通じた労働者の安全衛生教育、会員の安全衛生活動への支援を着実に推進され、クレーン業界全体の労働災害・事故防止と技術向上に多大な貢献をされてこられました。その長年のご努力に、改めて深く敬意を表する次第です。

クレーンは、建設、港湾、製造、物流など、我が国の基幹産業を支える極めて重要な機械設備であり、その安全確保は産業全体を支える要であります。東京労働局に寄せられる重大な労働災害の中でも、クレーン関連事故は依然として一定の割合を占めており、労働災害防止に向けた不断の取組が求められています。特に東京という大都市圏においては様々な現場でクレーンが使用され、技術革新も著しいことから、作業者の技能・知識の継続的な習得は不可欠です。貴支部が現場の実情に即した教育を提供されてきたことは、安全確保に向けた極めて実効的な取組として高く評価されます。

東京労働局では、第 14 次東京労働局労働災害防止計画を「Safe Work TOKYO」をキャッチフレーズに掲げ、様々な施策を推進しております。計画の着実な達成に向け、今後とも貴支部と緊密に連携しながら取組を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。また、貴支部が長年培ってこられた豊富な経験と専門的知見は、今後の労働災害防止施策を実効的に推進する上でも極めて重要な役割を果たすものと期待しております。

また、令和 7 年 5 月 14 日に労働安全衛生法及び作業環境測定法の一部を改正する法律が公布・順次施行され、本年 4 月から機械等による労働災害防止の促進、高年齢労働者の災害防止、個人事業者等の安全衛生対策の強化などに関するものの一部が施行されていますので、改正法令を捉えた今後の労働災害防止の取組も併せてお願い申し上げます。

東京管内では、国際都市機能の維持向上に向けた大規模工事、都市インフラ改修、建築物の老朽化対策等の需要が高まり、クレーン等の稼働は今後も高水準で推移すると見込まれます。AI やウェアラブル端末等のデジタル技術を活用し、効率的・効果的な安全衛生活動の促進や、危険有害な作業における遠隔管理・遠隔操作・無人化等による作業の安全化の推進が期待される一方で、これら新技術の導入に伴う新たなリスクにも適切に対応していく必要があります。

こうした環境変化の下、クレーン運転士や玉掛者等に必要な技能と安全衛生知識を確実に身につけることの重要性はますます高まっています。貴支部には、引き続き高度な専門性を活かした教育・研修を通じ、安全で持続可能な現場づくりに一層ご貢献いただけるものと強く期待しております。

結びに、40 年にわたり東京の産業と安全を支えてこられた貴支部のご功績に深く敬意を表し、今後のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。

40周年を迎えて

一般社団法人日本クレーン協会 会長 森下 信



一般社団法人日本クレーン協会東京支部が創立40周年を迎えられましたことに、心からお慶び申し上げます。

当協会は、クレーン等に関する技術の向上及び事故又は災害の防止に寄与することを目的として、クレーン等に関する調査研究、教育、講習、検査、検定等を行う専門機関として昭和38年9月に発足しました。現在は全国に26支部ありますが、東京支部は昭和61年5月に設立されました。

この40年間、東京支部ではクレーン運転実技教習、技能講習、特別教育などの教育活動を積極的に推進されてきました。また、優良クレーン運転士等表彰、優良事業場見学会等を実施するなど、クレーン等に関する技術の向上と事故・災害防止に多大な貢献をされてきました。これも、支部役職員並びに会員の皆様のご尽力・ご協力の賜物であると思います。

クレーン等に関する災害については、皆様のご努力によりまして長期的には減少傾向にありますが依然として年間に2,000件前後あり、数多くの方が被災しています。クレーン等が稼働する現場は、現状では必ず人が関与しますので、災害を完全に回避することは困難があるのですが、協会としましては災害を着実にゼロに近づけるべく、これまで行ってきた事業をさらに確実に推進していく必要があると強く認識しています。

近年、クレーン等を取り巻く技術的環境は著しく変化しており、その代表格のひとつが情報技術の発展による各種機械の自動化・自律化です。特に、人工知能(AI)は社会全体に大きな変革をもたらしており、この変革のうねりは益々大きくなるものと推定されます。クレーン等に限定すれば、2025年に厚生労働省の無人運転機械の安全検討会が始まり、検討内容にはタワークレーンの遠隔操作も含まれています。現状から考えると、一足飛びにクレーン等の運転にAI導入という訳にはゆきませんが、将来的には確実に導入することが予想される状況です。その際には人とAIとの共存・協働が求められることとなります。

当協会の運営は、会員数の減少や検査台数の減少など依然として厳しいものがありますが、協会に対して社会から求められている役割を果たすために、なお一層努力してまいり所存でありますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

東京支部におかれましても、支部創立40周年を節目として、これまで培ってきた知識と経験を活かして、地域に密着した活動を積極的に推進されることを期待しております。

最後に、東京支部並びに支部会員の皆様の益々のご発展とご多幸を心から祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

支部設立 40 周年を迎えて

元支部長 佐藤 康博 (元鹿島建設株式会社)



東京支部設立 40 周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

私が所属しておりました建設業界の技術者は、クレーンとの関りは必須です。私の場合は入社 1 年目の現場天井クレーンでのゴンドラ運転特別教育受講から始まり、マイクロコンピュータによるケーブルクレーンの自動化ソフトの製作・運用、橋形クレーンへのシーケンサー (PLC) 導入等、クレーンとの関りは 47 年になりました。

日本クレーン協会 東京支部様での私の活動は、社内異動等で断続的とはなりましたが 2006 年から 11 年間でした。2013 年には支部長を拝命し、日本クレーン協会創立 50 周年記念大会を東京で開催する等皆様と活動させていただき大変光栄でした。

私が退任後の支部の活動では、本来業務であります各種講習によるクレーン等に関する技術の向上及び災害の防止活動、各種規格の検討・審議等の他、2020 年の神奈川支部と東京支部の合併、2023 年全国クレーン安全大会の 10 年ぶりの東京開催等多数の事項を実施されました。改めて感謝申し上げます。

創立 40 周年を迎えるにあたり、直近 10 年間を私事も含めながら振り返ってみました。

選挙権が 18 歳となった 2016 年は、日銀のマイナス金利導入、オバマ大統領広島訪問、安倍首相の真珠湾慰霊等話題は豊富でしたが、私としましては長女のリオ五輪出場が一番でした。入賞はできず、4 年後の東京オリンピックは新型コロナ流行による 1 年延期等種々の背景で参加はこのときのみでしたが。

同じころ、地震や火山災害での二次災害を防止するため無人化施工、ICT (i-construction) 施工等が試行され始め、その後のマシンガイダンス、マシンコントロールの考え方に影響を与えました。近年は人口減少による熟練労働者不足等から車両系建設機械等の自動化・遠隔操作化が検討・実用化が進められており、クレーン関連では関係省庁もその指針の制定を検討されているようです。

この他 10 年間でクレーン誌に報告された開発だけでも、ワイヤロープ寿命判定技術、接近警報装置、排ガス対応、女性オペレータの活躍、フルハーネス型安全帯の採用、風力発電用タワークレーン、天井クレーン自動化・自律化、ケーブルクレーンへの GNSS・CIM 活用、小型移動式クレーン技能講習への VR 活用、インバータホイスト、AI 活用人検知システムのスマートクレーン、AI 技術実装の無人化ごみクレーン、タワークレーン 3 次元自動誘導システム、電動ラフテレーンクレーン等多岐に渡り、支部講習関係の皆様は最新技術の講習への反映等日々ご苦労されていることと思います。

更に安全面では、私が建築現場で活動していた 2000 年の全産業におけるクレーン等災害死者数は 127 人、2010 年には 76 人、2020 年 42 人と 40% 前後ずつ減らすことができておりましたが、その後は増減を繰り返しており、新たな挑戦が必要な段階を迎えたものと思われます。

自然気象では 2017 年ころから熱中症予防対策が検討されておりましたが、2023 年には夏の平均気温が過去最高となってしまいました。

以上のように、私たちを取り巻く環境はどんどん変化しており、クレーン関連の安全確保のために支部が求められる役割は、その講習内容も含め益々重要になると考えます。

支部会員の皆様のご支援のもとでの東京支部の更なる発展をご祈念いたしまして、40 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

東京支部設立 40 周年おめでとうございます

元支部長 洗 光範 (株式会社竹中工務店)



東京支部設立 40 周年、誠におめでとうございます。40 年前は私が会社に入社し、クレーンとの関わりを持ち始めた年でもあり、少なからぬご縁を感じております。

私が支部長を拝命いたしましたのは、前任の森田将史支部長が所属会社内の異動により大阪勤務となることが決まったため、急遽私に白羽の矢が立てられたことによるものでした。当時私は福島第一原発の復旧工事の作業所に赴任しており、数十年ぶりの独身生活と久しぶりの“現場員”生活を満喫している最中でした。そのため、すぐには東京での支部長の任に就くことができず、赴任期間が終了するまでの数か月間は出張の形で東京支部の主要行事にのみ出席させていただきました。支部の事務局長をはじめ職員の皆様には多大なご迷惑をおかけいたしましたことを、改めてお詫び申し上げます。

クレーン協会での仕事は久しぶりで、若い頃はドイツで開催された BAUMA を視察した記事を寄稿したり、クレーン誌編集委員として北の丸公園内にある科学技術館に取材に行き、展示されているクレーン模型を使ったゲームを体験した記事を書いたりした記憶があります。委員としての活動を通じて、多くのメーカーや同業のベテランの方々と知り合い、交流できたことは良い思い出となっております。

支部長になってからは、2020 年の神奈川支部との合併が最も大きな出来事でした。神奈川支部が単独での運営が困難になったということで、東京支部と合併して再出発するということは決まりましたが、詳細な対処方法など多くの課題や手続きについて、神奈川支部との打ち合わせや協会本部との連絡調整を重ねて実現に至りました。旧神奈川支部は京浜工業地帯を抱えていたため、日本を代表する有名電機・機械メーカーの大工場が会員・役員となっており、初顔合わせの合同会議などの際に、我々ゼネコンが中心の支部に比べて品格が違っていると感じていたのは私だけだったのでしょうか。これにより会員数が 144 から 238 (合併当時) へと大幅に増加し、活動範囲も拡大した新東京支部が誕生いたしました。私の支部長としての任期中における最も大きな出来事ではありますが、実際に数十か月前からその業務を担当していただいていたのは当時の田中和三事務局長で、そのご苦労とお骨折りには改めて感謝申し上げる次第です。蛇足ではございますが、田中事務局長は私と同郷の北九州の大先輩で、田中さんの出身高校が最も名門の有名進学校、私の高校がその次(?)ということもあり、支部長在任中およびその後の本部副会長時代には大変お世話になりました。

他の団体での活動ではありますが、2000 年頃にワーキングのメンバーとして 50 年後の建設機械を想像して会誌に発表したことがあります。50 年後には今のメンバーは誰もこの業界にはいないだろうということで、技術的根拠にこだわらず無責任に未来のクレーンに思いを巡らせました。しかし、それから「50 年後」の半分が過ぎた現在でも、クレーンに大きな変化は見られないようで、少し安心すると同時に、若い頃に想像したようにクレーンが劇的に変化することをもう少し期待し続けようとも思っております。

人類の営みが続く限り、形状や機構が変わったとしてもクレーンは存在し続けるでしょう。すなわち、クレーン協会も当然必要でありますので、50 周年、100 周年と続いていくことを期待いたします。

40周年祝辞

元支部長 鈴木 博士 (株式会社大林組)



このたび、日本クレーン協会東京支部が設立40周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。40年という歳月の重みは、幾多の挑戦と努力の積み重ねの上になり立つものであり、その礎を築いてこられた諸先輩方に、深い敬意と感謝を表します。

私は2021年度より3年間支部長を務めさせていただき、その後も理事として関わらせていただいております。ちょうど支部長就任時はコロナ禍の真ただ中で、活動の制限や先行きの見えない不安の中での船出でした。対面での事業や交流が難しい時期が続きましたが、会員の皆様の理解と協力に支えられ、支部としての歩みを止めることなく進めることができました。

2023年頃にはコロナも収束し、事業場見学会を再開できたことは、私にとって特に印象深い出来事です。安全や技術への取り組みを会員皆で共有し合う時間は、改めてこの業界の力強さと連帯感を実感する機会となりました。また同年、本部主催のクレーン安全大会が東京で開催された際には、開催支部を代表して開会のことばを述べさせていただいた事はいい思い出です。

さらに、神奈川支部との合併という節目も経験いたしました。地域や立場の違いを越え、共に新しい一歩を踏み出したのは、東京支部がもともと持っている「業種の壁を越えたチームワーク」があったからこそだと思っております。互いを尊重し、率直に語り合い、そして何より楽しく活動する。この風土こそが東京支部の魅力であり、強さであります。

40周年という事で、まだ私が学生だった40年前の1980年代はどうだったのか？

携帯電話はもちろんパソコンでさえ一般的には普及はしていませんでした。現代のように「スマートフォン」と呼ばれている武器があれば通話はもちろん、カメラになったりお財布にもなったりします。インターネットを介せば世界中どこにでも繋がり必要な情報は何でもいくらでも調べる事が出来ます。AIが答えを出してくれたりもします。

当時、AIや高度なデジタル技術がここまで身近になると想像した人がどれほどいたでしょうか。

40年は一つの通過点です。先人が築いた歴史の上に立ち、私たちは次の世代へ何を手渡していくのか。その責任と希望を胸に、想像を超える未来を楽しみにしながら、東京支部がさらに発展していくことを心より祈念いたします。

結びに、これまで支部を支えてこられたすべての皆様に改めて感謝を申し上げ、東京支部のさらなる飛躍と会員各位のご健勝を祈念し、祝辞といたします。

40周年を迎えて

田中 和三 ((一社)日本クレーン協会東京支部 教習センター所長)



私が東京支部に入社したのは、平成24年5月、新木場の各所にも東日本大震災の影響が残っている状況でした。その後、令和4年5月に事務局長を退任し、その後は教習センター所長として、13年間にわたり、お世話になっています。会員各位とりわけ役員、理事の方々には、深く、感謝申し上げます。また、職員や講師の方々がいなければ、運営は立ち行かなかったもので、退職された方も含め厚く御礼申し上げます。

就任当時の業務の運営状況は、移転や震災の影響で、講習受講者も少なく、収支もマイナスの状況でした。そこで、経費の節減に取り組みましたが、収支は改善せず、これでは、ジリ貧で埒が明かないと、パンフをたくさん作成して、新木場や浦安の鉄鋼団地の事業所を自転車で回って配布し、ホームページを分かりやすくするなど、受講者の増加対策を行いました。その結果、着任3~4年後からは、受講者も増加し、収支を改善させることができました。

任期中の出来事で、忘れることができないことが、いくつもありますが、その中でも、特に、思い出に残っていることとして、2020東京オリンピックの前年に、組織委員会から連絡があり、オリンピックのテレビ中継の技術スタッフが、ヨーロッパから多数入国するが、入国後、テレビ中継の現場で高所作業を行うので、高所作業車の運転技能講習やフルハーネスの特別教育を実施してほしいという依頼でした！オリンピックの中継に必要な資格ということで、オリンピックの円滑でかつ安全な開催に協力するという使命感に基づき実施することとしました。受講生は、ヨーロッパ各国（ギリシャ、イタリア、スペイン、ドイツ、オーストリア、ルーマニア、ウクライナ等）出身で、OBS (Olympic Broadcasting Services) に所属している者で、オリンピックの少なくとも前年から開催地に順次入国し、必要な研修、教育を受けて、テレビ中継の準備と本中継を行うというものでした。実施会場は、有明の国際展示場（ビッグサイト）で、入場してから会議室または実技の場所まで、毎回10分程度歩いて行くのですが、会場内の通路は迷路のようになっていて、ある時、場所を間違えて、迷子になったことなど思い出します。ところが、東京オリンピックは新型コロナの影響で、1年延期され、無観客で実施され、競技はすべてテレビ中継で見るしかなかったことは、皆様ご存じのとおりです。オリンピック・パラリンピックが終了後、しばらくして組織委員会から連絡があり、大会の準備運営に多大な貢献をしたとして、橋本会長名で感謝状を授与されたことは名誉なことでした。また、このときの経験をもとに、その後、技能実習生などの外国人に対する技能講習等に積極的に取り組むこととなりました。

任期中の大きな出来事として、もう一つは、神奈川支部との合併がありました。神奈川支部との合併

の話は、平成30年秋ごろ本部総務部から話しがありました。神奈川支部の運営が厳しい状況なので、合併して、東京支部で何とか運営を継続してくれないかという話しでした。そして、その年の11月、両支部の役員が出席した臨時の役員会で、神奈川支部から正式に合併の申し入れがありました。

合併するに当たり、大きく2つの障壁がありました。1つは、東京支部に合併のメリットはあるのか、また、両方の理事会の理事の数や役員をどのように選ぶかということで、理事の了解、納得を得られるかということでした。もう1つは、東京支部の事務局で、神奈川支部の業務を引き継ぎ、運営できるかという問題でした。

この2つの問題について、東京支部の理事会において、事前説明を行い、最終的には、令和に変わった元年5月の両支部の総会においてそれぞれ承認を得ました。そして令和元年から令和2年2月までの各理事会において、会員の承継、資産の承継、業務の承継等について検討を重ね、令和2年4月1日、両支部は正式に合併し、5月の総会で、両支部の会員が出席し、交流することとなり、神奈川地区での活動も開始することとなりました。

神奈川地区の講習会場は、学科講習は、桜木町駅から、歩いて15分ほど、万国橋のたもとにある万国橋会議室を借りて実施していましたが、桜木町から関内周辺は、昔、横浜で勤務したことがあって、土地感もあり、講習の受付や試験で行く都度、周辺を散歩して楽しんでいました。ただし、実技の講習は、当時、横須賀の住友重機械工業様の会場を借りて実施していましたので、その時は、前泊し、京急の追浜駅からタクシーで、会場まで通っていました。この実技の会場については、事務局はともかく、受講者が相当不便ということで、神奈川労働局に相談し、令和3年度からは、東京支部の実技棟で実施できることとなり、業務の負担を大幅に、軽減することができました。

また、学科講習も、令和5年度からは、横浜駅に程近い日本ボイラ協会神奈川支部の会議室を借用できることとなり、こちらも受付等の業務が楽になっています。

新型コロナウイルス感染症による業務への影響は、感染が確認され、拡大していった1年目は、一部の講習を中止するなど、それなりに影響を受けましたが、2年目以降は、感染防止対策を万全に講じながら学科、実技の講習を実施し、影響は最小限に留めることができました。

また、外国人に対する講習については、年々、増加している状況で、特に玉掛け技能講習は、ほぼ毎月実施し、受講者が増加しています。課題としては、年々、受講者が多国籍化していること、また、9年4月からは、あらたに、育成就労制度が施行されることなどから、実施方法等についても、工夫や改善が喫緊の課題となっています。

毎年の総会や懇親会で、会員や来賓の皆様と交流できたこと、事業所見学会で、北海道や北陸、四国、九州など各地の優良工場や観光地を回れたことなど、思い出せばきりがありません。

最後に、会員事業場の益々のご繁栄と皆様方ご健勝を祈念しまして、私の挨拶といたします。

ありがとうございました。

支部設立 40 周年を祝して

運営企画委員長 松本 健太郎 (大成建設株式会社)



一般社団法人日本クレーン協会東京支部が設立 40 周年という輝かしい節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。会員の皆様とともにこの慶事をお祝いできますことを大変光栄に存じます。

当支部が設立された当時、私はまだ 5 歳でようやく周囲の景色に興味を持ち始めた子供でした。当時の日本は都市開発が急速に進み、街のいたるところでクレーンが空高く腕を伸ばしていた時代であったと聞き及んでおります。それから 40 年、東京の街並みは劇的な変化を遂げましたが、いつの時代もその変遷の傍らにはクレーンがあり、何よりそれらを支え続けてきた当支部の皆様のたゆまぬ努力がありました。歴史を積み重ねてこられた諸先輩方の情熱とご功績に、改めて深い敬意を表します。

私が運営企画委員会に参加させていただいた 2022 年 4 月は、コロナ禍という未曾有の事態により社会全体が停滞を余儀なくされていた時期でした。協会活動においても対面での議論や現場視察といった交流の場が厳しく制限され、活動の維持すら容易ではない非常に歯がゆい状況であったと記憶しております。

しかし、そのような厳しい状況下で行われた議論を通じて感じたのは、困難に屈しない強い使命感でした。長年この道を歩んでこられた先達の皆様が交わす確信に満ちた言葉の数々には、現場で培われた確かな知見と業界の未来を想う温かさが込められており、私にとってそれは大きな学びと刺激の連続でありました。

そして 2025 年 4 月より、運営企画委員会の委員長という大役を拝命することとなりました。40 周年という節目にこの重責を担うことに身の引き締まる思いを抱くと同時に、伝統を次代へと繋いでいく使命の大きさを強く感じております。

会員の皆様の年齢層から見ましても、私はこの業界において次代を担う世代の一人であり、諸先輩方が築き上げてこられた壮大な歴史をまさに今全身で受け止めている最中です。この立場にあるからこそ果たせる役割は、諸先輩方が磨き上げてこられた伝統あるバトンを大切に守り抜きながら、今の時代に即した「新しい風」を柔軟に吹き込んでいくことだと確信しております。

現在私たちの業界は「2024 年問題」に端を発する労働力不足や、熟練技能の確実な継承といった喫緊の課題に直面しております。これからの 10 年、20 年を見据えたとき、諸先輩方が命をかけて守り抜いてこられた「現場の揺るぎない信頼」を一切の妥協なく次代へと繋ぎつつ、若い世代がこの仕事に誇りと夢を持ち、安心して自己研鑽に励める環境を整えていくことが私の世代に課せられた最大の使命です。山積する一つひとつの課題に対して、運営企画委員会としても現場の皆様の声を丁寧にお預かりしながら誠実に向き合ってまいります。

日々の研鑽と細心の注意を積み重ねることに終わりはありません。40 周年という節目を一つの通過点と捉え、次なる 50 周年へと続く新たなスタートラインに立つ思いです。諸先輩方が大切に育ててこられたこの絆を未来へと高く吊り上げ、会員の皆様が誇りを分かち合える強固な組織へと発展させるべく、皆様のご助力を仰ぎながら、一つひとつ全力で取り組んでまいります。

結びに、日本クレーン協会東京支部の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。40 周年の祝辞とさせていただきます。

支部設立 40 周年に寄せて

広報委員長 羽鳥 哲夫 (株式会社大林組)



この度、日本クレーン協会東京支部が設立 40 周年という輝かしい節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。これもひとえに、皆様方の日頃のご協力とご尽力の賜物であり、深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

私は 2022 年より広報委員活動に参加させていただき、4 年間にわたり大変お世話になっております。定期開催の広報委員会では、委員会に参加していただいている皆様のご協力により、毎回楽しく、有意義な時間を過ごさせていただいております。

広報委員会では、季刊誌『春夏秋冬』の編集・発行を主な活動としております。その中の「会員探訪」コーナーでは、会員の皆様におきましては大変お忙しい中、取材にご協力いただき、いつも貴重なお話を伺っております。取材を通じて、私たち自身が多くの学びと感銘を受けており、この場を借りて改めて御礼申し上げます。今後とも変わらぬご協力をお願い申し上げます。

また、「読者コーナー」では会員の皆様から趣味や旅行記など様々なジャンルにわたる記事を寄稿していただき、掲載させていただいております。編集している我々も会員の皆様の活気あふれる記事をいつも楽しく拝見させていただいております。趣味や感動体験などジャンルは自由ですので我こそは！と思っただけの方はずっとも寄稿のほうをよろしくお願いたします。広報委員会一同楽しみにお待ちしております。

季刊誌『春夏秋冬』は 1995 年の創刊以来、今年で 31 年目を迎えました。これからも会員の皆様に愛され、時にほっと一息ついただける誌面づくりを目指し、クレーン災害撲滅の一助となるよう広報委員会一同努力してまいりますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、東京支部が 50 周年へ向けてますます発展されること、そして会員皆様のご繁栄を心より祈念し、祝辞とさせていただきます。

一般社団法人 日本クレーン協会 会長表彰者名簿（順不同・敬称略）

	氏名	事業場名	種類
平成 28 年	畠山 賢治	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン等運転業務従事者
	福地 良介	東急建設株式会社土木本部機械技術部	優良クレーン等運転業務従事者
平成 29 年	中村 和則	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン等運転業務従事者
	矢島 誠一	東急建設株式会社土木本部機械技術部	優良クレーン等運転業務従事者
平成 30 年	佐藤 保	株式会社竹中工務店東日本機材センター機械第 2 グループ	優良クレーン等運転業務従事者
	田端 貢	株式会社大林組東京機械工場	優良クレーン等運転業務従事者
	塚田 昌宏	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
	永野 清作	株式会社大倉製作所	優良クレーン等整備従事者
令和元年	菊地 政信	株式会社竹中工務店	優良クレーン等運転業務従事者
	大畑 久	東急建設株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
令和 2 年	鳴海 勝	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン運転業務従事者
	小坂 則夫	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン運転業務従事者
	内山 浩	JFE スチール株式会社東日本製鉄所京浜地区	優良クレーン等整備従事者
	滝本 徳之	西尾レントオール株式会社建築機械部	優良クレーン等整備従事者
	榎田慎太郎	株式会社大林組東日本ロボティクスセンター	優良クレーン等整備従事者
令和 3 年	恩田 栄司	JFE スチール株式会社東日本製鉄所京浜地区	優良クレーン等運転業務従事者
	川原木裕司	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	西村 卓也	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン等運転業務従事者
	堤 勇人	株式会社大林組東京ロボティクスセンター	優良クレーン等運転業務従事者
	吉田 孝	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター	優良クレーン等整備従事者
令和 4 年	佐藤 良之	東芝エネルギーシステムズ株式会社京浜事業所	優良クレーン等運転業務従事者
	高島 栄治	JFE スチール株式会社東日本製鉄所	優良クレーン等運転業務従事者
	高水 裕二	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	鈴木 文夫	株式会社大矢運送	優良クレーン等運転業務従事者
	寺澤 正	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター	優良クレーン等整備従事者
令和 5 年	三本木 淳	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン等運転業務従事者
	葛西 雅美	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	住本 和也	JFE スチール株式会社東日本製鉄所京浜地区	優良クレーン等運転業務従事者
	小菅 辰男	日産自動車株式会社横浜工場	優良クレーン等運転業務従事者
	齋藤 誠	株式会社大矢運送	優良クレーン等運転業務従事者
	梅沢 正宏	川崎市環境局施設部堤根処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	淵田 成章	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	富田 実	住友重機械工業株式会社横須賀製造所	優良クレーン等整備従事者
令和 6 年	平 政信	株式会社大倉製作所	優良クレーン等整備従事者
	高安 純一	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	尾野 篤司	株式会社竹中工務店	優良クレーン等運転業務従事者
	本田 健一	株式会社大矢運送	優良クレーン等運転業務従事者
	中村 孝弘	株式会社大林組	優良クレーン等運転業務従事者
	杉田 淳	川崎市王禅寺処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	泉山 弘樹	産業リーシング株式会社	優良玉掛け業務従事者
	菅原 大介	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
令和 7 年	佐野 誠美	JFE スチール株式会社	優良クレーン等整備従事者
	高橋 茂男	JFE スチール株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	村元 勝彦	川崎市王禅寺処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	鈴木 達雄	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者

	氏名	事業場名	種類
令和7年	渡邊 誠司	株式会社大矢運送	優良クレーン等運転業務従事者
	吉野 政明	株式会社竹中工務店	優良クレーン等整備従事者
	寺本 喜周	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
	田中 伸幸	株式会社大林組	優良クレーン等整備従事者

一般社団法人日本クレーン協会 東京支部長表彰者名簿（順不同・敬称略）

	氏名	事業場名	種類
平成28年	三好 慎市	株式会社加藤製作所	優良クレーン等運転業務従事者
	前崎 隆	株式会社大林組東京機械工場	優良クレーン等運転業務従事者
	南 陽士	東急建設株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	篠崎 博行	株式会社浅井	優良クレーン等運転業務従事者
	長谷川信宏	産業リーシング株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	尾崎 毅	株式会社大倉製作所	優良クレーン等整備従事者
	日比野直人	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
	河内 良一	西尾レントオール株式会社建築機械部	優良クレーン等整備従事者
平成29年	中墓 康夫	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン等運転業務従事者
	榎田慎太郎	株式会社大林組東京機械工場	優良クレーン等整備従事者
	木村 広樹	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター	優良クレーン等整備従事者
	宮井 秀樹	株式会社大倉製作所	優良クレーン等整備従事者
平成30年	吉田 健二	サンキサービス株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	中野 浩一	株式会社加藤製作所	優良クレーン等運転業務従事者
	齊藤 祐二	株式会社大矢運送	優良クレーン等運転業務従事者
	仲子 幸太	産業リーシング株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	遊佐 正法	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	酒谷 徹	株式会社シグマ東京クレーン学校	優良クレーン等整備従事者
	穂積 教文	株式会社アクティオ	優良クレーン等整備従事者
	寺本 喜周	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
令和元年	前田 秀男	サンキサービス株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	松本 勝城	吉永機械株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	鷲尾 篤	株式会社加藤製作所	優良クレーン等整備従事者
	平 政信	株式会社大倉製作所	優良クレーン等整備従事者
	山本 恵二	西尾レントオール株式会社	優良クレーン等整備従事者
	五嶋 昭仁	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター	優良クレーン等整備従事者
	齋藤 洋平	産業リーシング株式会社	優良クレーン等整備従事者
令和2年	山田 徹	サンキサービス株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	吉田 幸政	川崎市堤根処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	川澄 康夫	古河ユニック株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	岡本 勝彦	日産自動車株式会社横浜工場	優良クレーン等運転業務従事者
	姫島 幸二	JFE スチール株式会社東日本製鉄所京浜地区	優良クレーン等運転業務従事者
	高水 裕二	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	星 宏行	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	矢吹 通夫	株式会社大倉製作所	優良クレーン等整備従事者
	内海 久弥	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
令和3年	笠谷 義廣	サンキサービス株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	武内 誠一	産業リーシング株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	牧之角龍夫	川崎市浮島処理センター	優良クレーン等運転業務従事者

	氏名	事業場名	種類
令和3年	葛西 雅美	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	高安 純一	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	佐藤 良之	東芝エネルギーシステムズ株式会社京浜事業所	優良クレーン等運転業務従事者
	加藤 健三	東芝エネルギーシステムズ株式会社浜川崎工場	優良クレーン等整備従事者
	中村 真也	株式会社アクティオクレーン関東工場	優良クレーン等整備従事者
	本園 正幸	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター	優良クレーン等整備従事者
令和4年	尾野 篤司	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン等運転業務従事者
	住本 和也	JFE スチール株式会社東日本製鉄所京浜地区	優良クレーン等運転業務従事者
	西元 靖朗	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	村元 勝彦	川崎市王禅寺処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	山下 恭資	東芝エネルギーシステムズ株式会社京浜事業所	優良玉掛け業務従事者
	大西 眞	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター	優良クレーン等整備従事者
令和5年	田中 伸幸	株式会社大林組東日本ロボティクスセンター	優良クレーン等整備従事者
	谷川 毅彦	株式会社エスシー・マシーナリ東京機械センター	優良クレーン等運転業務従事者
	篠田 克則	株式会社浅井	優良クレーン等運転業務従事者
	宮内 正道	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	安部 譲	株式会社加藤製作所	優良クレーン等運転業務従事者
	山口 貴博	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	古茂田将樹	川崎市王禅寺処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	石本 孝幸	株式会社竹中工務店東日本機材センター	優良クレーン等運転業務従事者
	五戸 直樹	日本ゴンドラ株式会社	優良クレーン等整備従事者
	森 宏樹	住友重機械工業株式会社横須賀製造所	優良クレーン等整備従事者
	名久井 功	サンキサービス株式会社	優良クレーン等整備従事者
	柴 憲一	株式会社大倉製作所	優良クレーン等整備従事者
豊留 裕樹	産業リーシング株式会社	優良クレーン等整備従事者	
令和6年	新開 正則	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	猪股 正明	日産自動車株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	鳥光 喬	株式会社加藤製作所	優良クレーン等運転業務従事者
	望月 純一	JFE 物流京浜株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	林 幹雄	アイダエンジニアリング株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	佐藤 典明	株式会社竹中工務店	優良クレーン等運転業務従事者
	服部 伸治	川崎市王禅寺処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	小菅 貴志	東芝エネルギーシステムズ株式会社	優良玉掛け業務従事者
	須安 正直	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
	大場 正樹	株式会社アクティオ	優良クレーン等整備従事者
	山口 達也	JFE スチール株式会社	優良クレーン等整備従事者
令和7年	荒川 祐二	JFE スチール株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	鈴木 一人	川崎市王禅寺処理センター	優良クレーン等運転業務従事者
	滝吉 清彦	五栄土木株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	半澤 博和	株式会社大矢運送	優良クレーン等運転業務従事者
	横川 祐一	産業リーシング株式会社	優良クレーン等運転業務従事者
	其田 清	日産自動車株式会社	優良玉掛け業務従事者
	板垣 光	株式会社エヌシーエス	優良クレーン等整備従事者
	出口 豊	株式会社エスシー・マシーナリ	優良クレーン等整備従事者
新田 通陽	サンキサービス株式会社	優良クレーン等整備従事者	

事業場見学会

平成 28 年

コマツ株式会社粟津工場



日本自動車博物館

平成 29 年

古河ユニック株式会社佐倉工場



平成 30 年

IHI 運搬機械株式会社沼津工場



IHI 運搬機械株式会社 沼津工場

三島大社にて安全祈願

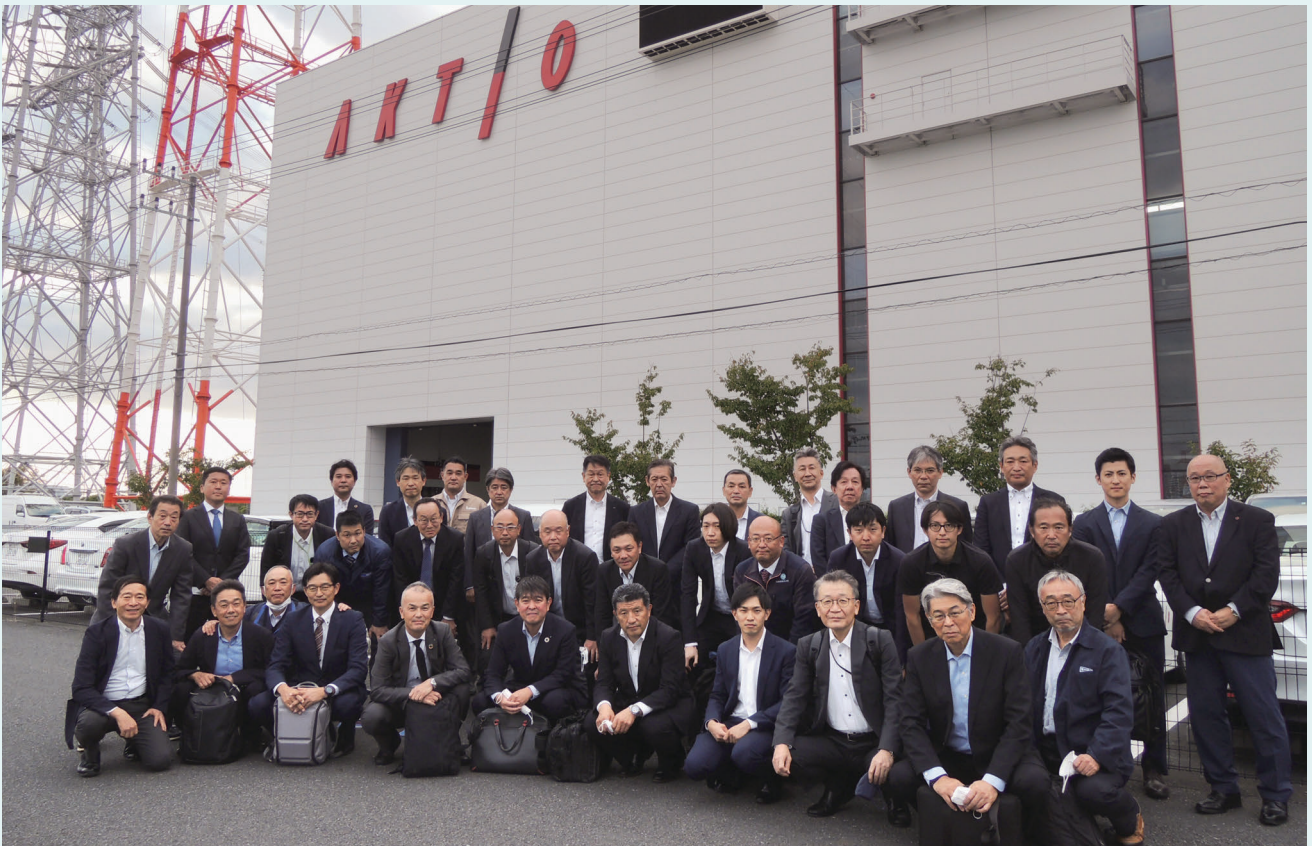


令和元年



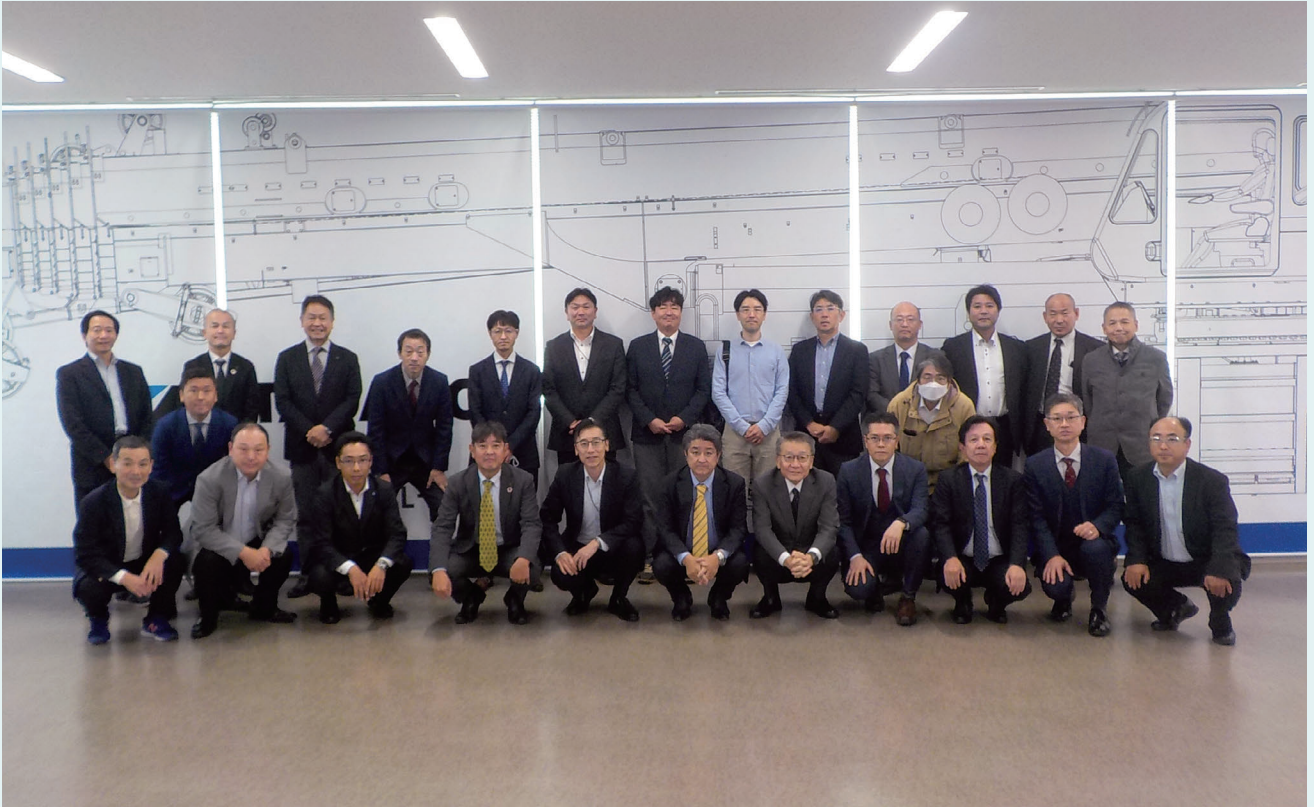
三菱重工業株式会社長崎造船所

令和 4 年



株式会社アクティオ東京DLセンター

令和 5 年



株式会社タダノ香西工場



栗林公園



北海道安全衛生技術センター



トヨタ自動車北海道株式会社苫小牧工場

令和 7 年



金沢港



コマツ株式会社粟津工場

年度別教習実施状況

		平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	
実技教習・技能講習	クレーン運転士 実技教習	回数	12	12	12	14	14	23	15	16	17	21
		修了者数	141	113	155	146	119	144	150	154	161	198
	床上操作式クレーン 運転技能講習	回数	13	13	15	18	16	14	22	20	22	18
		修了者数	292	353	326	378	235	335	480	401	454	432
	小型移動式クレーン 運転技能講習	回数	14	13	16	16	16	14	17	15	15	19
		修了者数	309	298	272	249	314	313	312	252	332	287
玉掛け技能講習	回数	26	27	29	36	40	31	45	51	50	41	
	修了者数	1,071	1,089	1,118	1,345	1,220	1,189	1,479	1,511	1,692	1,644	
高所作業車 運転技能講習	回数	0	3	7	6	4	4	6	5	4	6	
	修了者数	0	23	69	36	40	47	77	88	81	154	
特別教育	クレーン運転 特別教育	回数	23	25	29	36	27	25	28	31	31	29
		修了者数	657	719	731	823	587	667	676	736	747	720
	デリック運転 特別教育	回数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		修了者数	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	玉掛業務 特別教育	回数	0	0	1	10	4	1	0	3	2	0
		修了者数	0	0	15	122	35	10	0	43	20	0
	高所作業車運転 特別教育	回数	0	1	6	9	5	19	4	2	4	5
		修了者数	0	5	95	182	26	239	38	32	75	54
	小型移動式クレーン 特別教育	回数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
		修了者数	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0
	ロープ高所作業 特別教育	回数	10	4	1	0	0	14	0	0	0	0
		修了者数	380	111	19	0	0	70	0	0	0	0
	フルハーネス型墜落制止用器具使用作業 特別教育	回数	0	0	6	12	5	48	5	1	2	2
		修了者数	0	0	117	250	55	1,017	98	6	28	18
安全衛生教育	クレーン運転運転士 安全衛生教育	回数	2	2	5	4	4	6	8	5	5	5
		修了者数	40	42	66	46	35	81	129	56	58	63
	移動式クレーン 運転士安全衛生教育	回数	8	9	13	10	17	16	13	15	12	12
修了者数		396	509	355	462	552	566	574	504	520	536	
玉掛け業務従事者 安全衛生教育	回数	3	3	8	6	4	7	5	12	7	4	
	修了者数	116	87	194	103	64	301	162	322	281	90	
安全講習	天井クレーン定期 自主検査者安全講習	回数	3	3	4	3	6	5	5	6	6	6
		修了者数	115	74	96	96	147	121	180	131	168	197
	移動式クレーン定期 自主検査者安全講習	回数	3	3	6	3	9	4	4	4	4	4
		修了者数	94	117	154	82	184	93	93	127	110	102
	積載型トラッククレーン定期 自主検査者安全講習	回数	0	0	0	1	1	2	2	1	1	1
		修了者数	0	0	0	21	16	78	25	9	21	18
クライミングクレーン 組立・解体作業指揮者安全講習	回数	3	4	4	2	4	3	4	3	3	3	
	修了者数	73	62	86	65	62	62	100	37	49	55	
工事用エレベーター 組立・解体作業指揮者安全講習	回数	2	2	3	3	3	3	4	2	2	3	
	修了者数	48	54	46	49	41	35	74	23	60	45	
その他講習	クレーン・デリック 運転士免許学科試験準備講習	回数	14	12	14	15	16	15	15	15	16	19
		修了者数	122	109	141	138	142	141	175	185	190	152
	ワイヤロープ 保守管理講習	回数	5	3	3	2	5	3	4	4	3	2
		修了者数	291	170	36	36	131	29	149	27	35	30
その他のクレーン等 災害防止研修会	回数	3	4	2	1	2	3	4	17	9	5	
	修了者数	77	89	70	11	21	49	159	313	156	156	
計		回数	145	143	184	207	204	260	210	228	215	205
計		修了者数	4,245	4,024	4,161	4,640	4,040	5,587	5,130	4,957	5,238	4,951

一般社団法人 日本クレーン協会 東京支部歴代役員名簿（順不同・敬称略）

平成 28 年

役 職	氏 名	会 社 名 ・ 役 職
支部長	森田 将史	株式会社竹中工務店生産本部生産企画部部長
副支部長	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
副支部長	樋口 幹也	株式会社大林組東京本社機械部長
専務理事	田中 和三	(一社) 日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	松田 浩昌	IHI 運搬機械株式会社運搬システム事業部理事生産統括部長
理事	佐藤 康博	鹿島建設株式会社機械部長
理事	北川 一秋	株式会社加藤製作所執行役員営業部長
理事	山崎 忍	清水建設株式会社生産技術本部上席エンジニア
理事	平 清二郎	西尾レントオール株式会社建築機械部部長
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
理事	福士 洋	古河ユニック株式会社取締役国内営業部長
監事	石橋 正浩	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室室長
監事	貞谷 武志	東急建設株式会社土木本部機械技術部長

平成 29 年

役 職	氏 名	会 社 名 ・ 役 職
支部長	森田 将史	株式会社竹中工務店生産本部生産企画部部長
副支部長	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
副支部長	樋口 幹也	株式会社大林組東京本社機械部長
専務理事	田中 和三	(一社) 日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	松田 浩昌	IHI 運搬機械株式会社運搬システム事業部取締役生産統括部長
理事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
理事	鳥野 健司	株式会社加藤製作所執行役員荷機営業部長
理事	山崎 忍	清水建設株式会社生産技術本部上席エンジニア
理事	平 清二郎	西尾レントオール株式会社建築機械部部長
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
理事	藤井 卓司	古河ユニック株式会社取締役国内営業部長
監事	石橋 正浩	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室室長
監事	高橋 浩史	東急建設株式会社土木本部機械技術部長

平成 30 年

役 職	氏 名	会 社 名 ・ 役 職
支部長	洗 光範	株式会社竹中工務店生産本部生産企画部部長機械電気担当
副支部長	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
副支部長	樋口 幹也	株式会社大林組東京本社機械部長
専務理事	田中 和三	(一社) 日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	松田 浩昌	IHI 運搬機械株式会社運搬システム事業部取締役生産統括部長
理事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
理事	鳥野 健司	株式会社加藤製作所執行役員荷機営業部長
理事	山崎 忍	清水建設株式会社生産技術本部上席エンジニア
理事	平 清二郎	西尾レントオール株式会社広域営業部部長
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
理事	藤井 卓司	古河ユニック株式会社常務取締役営業本部副本部長
監事	石橋 正浩	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室室長
監事	高橋 浩史	東急建設株式会社土木事業本部技術統括部機械技術部長

令和元年

役職	氏名	会社名・役職
支部長	洗 光範	株式会社竹中工務店生産本部生産企画部部長機械電気担当
副支部長	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
副支部長	福田 智之	株式会社大林組ロボティクス生産本部企画管理部長
専務理事	田中 和三	(一社) 日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	松田 浩昌	IHI 運搬機械株式会社取締役運搬システム事業部長
理事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
理事	鳥野 健司	株式会社加藤製作所執行役員荷機営業部長
理事	山崎 忍	清水建設株式会社生産技術本部上席エンジニア
理事	平 清二郎	西尾レントオール株式会社広域営業部長
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
理事	藤井 卓司	古河ユニック株式会社常務取締役営業本部副本部長
監事	石橋 正浩	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室室長
監事	高橋 浩史	東急建設株式会社土木事業本部技術統括部機械技術部長

令和2年

役職	氏名	会社名・役職
支部長	福田 智之	株式会社大林組ロボティクス生産本部企画管理部部长
副支部長	鳥野 健司	株式会社加藤製作所執行役員荷機営業部長
副支部長	山岸 寛	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室室長
副支部長	城所 竜也	日産自動車株式会社横浜工場人事総務部長
専務理事	田中 和三	(一社) 日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
理事	洗 光範	株式会社竹中工務店生産本部生産企画部部長機械電気担当
理事	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
理事	松田 浩昌	IHI 運搬機械株式会社取締役運搬システム事業部事業部長
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
理事	藤井 卓司	古河ユニック株式会社常務取締役営業本部副本部長
理事	吉川 和宏	産業リーシング株式会社代表取締役社長
理事	経塚 敏勝	JFE スチール株式会社東日本製鉄所(京浜地区)安全健康室長
理事	小林 知茂	住友重機械工業株式会社横須賀製造所安全衛生課課長
理事	高橋 智宏	東芝エネルギーシステムズ株式会社浜川崎工場総務部長
理事	前田 桂生	横浜エレベータ株式会社常務取締役
監事	山崎 忍	清水建設株式会社生産技術本部上席エンジニア
監事	高橋 浩史	東急建設株式会社土木事業本部事業統括部機械技術部長

令和3年

役職	氏名	会社名・役職
支部長	鈴木 博士	株式会社大林組ロボティクス生産本部企画管理部部长
副支部長	鳥野 健司	株式会社加藤製作所執行役員荷機営業部長
副支部長	山岸 寛	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室室長
副支部長	城所 竜也	日産自動車株式会社横浜工場人事総務部長
専務理事	田中 和三	(一社) 日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
理事	洗 光範	株式会社竹中工務店生産本部生産企画部部長機械電気担当
理事	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
理事	松田 浩昌	IHI 運搬機械株式会社取締役運搬システム事業部事業部長
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長

役職	氏名	会社名・役職
理事	藤井 卓司	古河ユニック株式会社常務取締役営業本部副本部長
理事	吉川 和宏	産業リーシング株式会社代表取締役社長
理事	経塚 敏勝	JFE スチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）安全健康室長
理事	小林 知茂	住友重機械工業株式会社横須賀製造所安全衛生課課長
理事	岡田 興起	東芝エネルギーシステムズ株式会社浜川崎工場総務部長
理事	前田 桂生	横浜エレベータ株式会社常務取締役
監事	山崎 忍	清水建設株式会社生産技術本部上席エンジニア
監事	高橋 浩史	東急建設株式会社土木事業本部技術統括部機械技術部長

令和4年

役職	氏名	会社名・役職
支部長	鈴木 博士	株式会社大林組ロボティクス生産本部企画管理部部長
副支部長	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
副支部長	矢島 清志	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室部長代理
副支部長	経塚 敏勝	JFE スチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）安全健康室長
専務理事	地場 孝一	（一社）日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
理事	洗 光範	株式会社竹中工務店生産本部生産企画部部長機械電気担当
理事	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
理事	鈴木 大助	IHI 運搬機械株式会社取締役運搬システム事業部事業部長
理事	鳥野 健司	株式会社加藤製作所執行役員東京支店長
理事	藤井 卓司	古河ユニック株式会社顧問
理事	小川 剛	株式会社アクティオクレーン事業部上席執行役員事業部長
理事	伊藤 武志	日産自動車株式会社横浜工場人事総務部長
理事	小林 知茂	住友重機械工業株式会社横須賀製造所安全衛生課課長
理事	岡田 興起	東芝エネルギーシステムズ株式会社浜川崎工場総務部長
理事	前田 桂生	横浜エレベータ株式会社常務取締役
監事	古口 光	清水建設株式会社建築総本部生産技術本部生産技術開発センター主査
監事	高橋 浩史	東急建設株式会社土木事業本部事業統括部機械技術部長

令和5年

役職	氏名	会社名・役職
支部長	鈴木 博士	株式会社大林組ロボティクス生産本部企画管理部部長
副支部長	矢島 清志	大成建設株式会社建築本部技術部機械技術室部長代理
副支部長	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
副支部長	村田 貴幸	JFE スチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）安全健康室室長
専務理事	地場 孝一	（一社）日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
理事	松永 勇雄	株式会社竹中工務店東日本機材センター所長
理事	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
理事	鈴木 大助	IHI 運搬機械株式会社取締役運搬システム事業部事業部長
理事	鳥海 和孝	株式会社加藤製作所国内営業本部部長代行
理事	狩野 幸雄	古河ユニック株式会社常務取締役営業企画部長
理事	小川 剛	株式会社アクティオクレーン事業部上席執行役員事業部長
理事	伊藤 武志	日産自動車株式会社横浜工場人事総務部長
理事	小林 知茂	住友重機械工業株式会社横須賀製造所安全衛生課課長
理事	岡田 興起	東芝エネルギーシステムズ株式会社浜川崎工場総務部長
理事	前田 桂生	横浜エレベータ株式会社常務取締役

役職	氏名	会社名・役職
監事	古口 光	清水建設株式会社建築総本部生産技術本部生産技術開発センター主査
監事	高橋 浩史	東急建設株式会社土木事業本部事業統括部機械技術部長

令和6年

役職	氏名	会社名・役職
支部長	米村 幸雄	大成建設株式会社東京支店建築部技術部機械室室長
副支部長	古口 光	清水建設株式会社建築総本部生産技術本部生産技術開発センター主査
副支部長	狩野 幸雄	古河ユニック株式会社顧問
副支部長	小林 知茂	住友重機械工業株式会社横須賀製造所安全衛生課課長
専務理事	地場 孝一	(一社)日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	鈴木 博士	株式会社大林組ロボティクス生産本部企画管理部部長
理事	鈴木 賢礼	株式会社竹中工務店東日本機材センター所長
理事	岩田 広記	株式会社大倉製作所代表取締役社長
理事	鈴木 大助	IHI 運搬機械株式会社取締役運搬システム事業部事業部長
理事	三好 慎市	株式会社加藤製作所プロダクトサポート部サポートセンター担当部長代理
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
理事	平 清二郎	ニシオレントオール TC 株式会社取締役東日本事業部長
理事	伊藤 武志	日産自動車株式会社横浜工場人事総務部長
理事	村田 貴幸	JFE スチール株式会社東日本製鉄所(京浜地区)安全健康室室長
理事	岡田 興起	東芝エネルギーシステムズ株式会社浜川崎工場総務部長
理事	前田 桂生	横浜エレベータ株式会社常務取締役
監事	植木 睦央	鹿島建設株式会社機械部長
監事	児玉 和彦	東急建設株式会社土木事業本部事業統括部機械技術部相模原工場工場長

令和7年

役職	氏名	会社名・役職
支部長	米村 幸雄	大成建設株式会社東京支店建築部技術部機械室室長
副支部長	古口 光	清水建設株式会社建築総本部生産技術本部機械計画部ロジマネジメントグループ主査
副支部長	河田 良宣	古河ユニック株式会社事業企画部事業企画課兼国内営業部営業推進課技師長
副支部長	唄代 将司	住友重機械工業株式会社横須賀製造所安全衛生課課長
専務理事	地場 孝一	(一社)日本クレーン協会東京支部事務局長
理事	鈴木 博士	株式会社大林組ロボティクス生産本部企画管理部部長
理事	鈴木 賢礼	株式会社竹中工務店東日本機材センター所長
理事	荻野 恒	株式会社大倉製作所代表取締役社長
理事	鈴木 大助	株式会社タダノインフラソリューションズ取締役事業本部長
理事	三好 慎市	株式会社加藤製作所プロダクトサポート部サポートセンター担当部長代理
理事	三宮 正則	日本ゴンドラ株式会社代表取締役社長
理事	平 清二郎	ニシオレントオール TC 株式会社取締役東日本事業部長
理事	伊藤 武志	日産自動車株式会社横浜工場人事総務部長
理事	村田 貴幸	JFE スチール株式会社東日本製鉄所(京浜地区)安全健康室室長
理事	梶丸 洋治	東芝エネルギーシステムズ株式会社浜川崎工場総務部シニアマネージャー
理事	前田 桂生	横浜エレベータ株式会社常務取締役
監事	植木 睦央	鹿島建設株式会社メカトロニクス・ソリューション部特別参与
監事	児玉 和彦	東急建設株式会社土木事業本部事業統括部機械技術部長

運営企画委員名簿（順不同・敬称略）

令和8年度

	氏名	会社名・役職
委員長	松本 健太郎	大成建設株式会社 建築本部 建築機械部施工支援室 課長
委員	飯塚 満	鹿島建設株式会社 東京建築支店 機材部 担当部長 機電総括安全管理者
委員	大竹 文彦	株式会社竹中工務店 東日本機材センター 機械1グループ長
委員	古口 光	清水建設株式会社 建築総本部 生産技術本部 機械計画部 ロジマネジメントグループ 主査
委員	栗生 暢雄	株式会社大林組 本社 ロボティクス生産本部 企画管理部 部長
委員	大峰 秀之	東急建設株式会社 土木事業本部 事業統括部 機械技術部 相模原工場 工場長

広報委員名簿（順不同・敬称略）

令和8年度

	氏名	所属
委員長	羽鳥 哲夫	株式会社大林組 ロボティクス生産本部 生産技術第一部 施工支援課 課長
委員	久保 克	京和工業株式会社 代表取締役社長
委員	望月 勇作	株式会社大倉製作所 営業部 副部長
委員	金井 孝行	東急建設株式会社 土木事業本部 事業統括部 機械技術部 機電技術グループ グループリーダー
委員	宇内 康弘	株式会社竹中工務店 東日本機材センター 機械2グループ長

支部講師名簿（順不同・敬称略）

令和8年度

一井 博明	有働 征功	酒井 正明	長澤 岩男	鈴木 満
川邊 文男	蓑 博	大江 光成	狩野 幸雄	岩田 博文
宮井 秀樹	上林 雅之	坪田 章	八百 勇	澤口 義孝

職員名簿（順不同・敬称略）

令和8年度

教習センター所長	田中 和三	専務理事・事務局長	地場 孝一
業務課長	松本 美津子	業務課長補佐	田中 仁子
業務主任	板谷 のり子	事務職員・講師	留畑 功
嘱託職員・講師	西村 知行	嘱託職員	岩瀬 綾子
嘱託職員	山下 ヒエン	嘱託職員	吉村 司
嘱託職員	渡邊 富雄	嘱託職員	石川 真唯

編集後記

創立 40 周年という大きな節目にあたり、本記念誌の編集に携わる機会をいただき大変光栄に思います。

まずは創立以来、東京支部を支えてこられた多くの皆様並びに行政機関の皆様を始め関係各位の皆様方のご指導・ご支援等に感謝申し上げます。

さて、思い起こせば私が入社した令和 2 年は、ご承知のとおりコロナ禍の最中でした。当支部の受講者数が減少し、経営が苦しい時でした。その後、コロナ禍が収束に向かい始めるとフルハーネス型墜落制止用器具特別教育の受講特需により、急速に受講者数が増え忙しい日々を迎えることとなりました。その後は、外国籍の方々の玉掛け技能講習等の受講者数が増え続け今日に至ることとなりました。その間、当支部の事業運営を支えていただいた講師の皆様や事務局職員等の皆様はこの場をお借りし感謝申し上げます。

引き続き、次の 10 年そしてその先まで当支部の講習事業が安定して続き、クレーン関係の災害防止の一助となることを願っています。

最後に、本誌の制作にご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げるとともに、会員の皆様と当支部のさらなる発展を祈念いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本クレーン協会東京支部
専務理事・事務局長 地場孝一



日本クレーン協会東京支部

40年の
あゆみ

令和 8 年 5 月 7 日 印刷
令和 8 年 5 月 14 日 発行

発行所 一般社団法人日本クレーン協会
東京支部

〒136-0082 東京都江東区新木場 1-11-7
TEL03-5569-2022
FAX03-5569-2028

印刷所 壮光舎印刷株式会社

「40 年のあゆみ」PDF はこちらからご覧いただけます

